

# 六花

ROKKA

第56号  
2021年7月

ろっか（題字 矢田松太郎氏）

## 北海道大学低温科学研究所と雪の科学館が連携協定

### 低温研との連携協定について

低温科学研究所は、中谷宇吉郎の雪の研究が発端となり、寒冷地域特有のさまざまな現象の研究を推進するため、1941年に北海道大学初の附置研究所として設立されました。現在では、広く寒冷圏及び低温環境における自然現象の基礎と応用の研究を目的とする全国共同利用研究所であり、世界的にも著名な北海道大学の顔とも呼べる存在です。中谷宇吉郎雪の科学館は、今年度と同研究所と連携協力に関する協定を締結することとなりました。今後、低温科学に関する研究成果の発信や啓蒙、さらには地域振興などで協力関係を深め、科学館の発展に結びつけたいと期待しています。

協定の締結式は、低温科学研究所の福井学所長をお迎えし、7月23日(金)に科学館で開催いたします。また、この連携協定締結の記念行事として、「雪と氷の結晶－中谷の実験から宇宙実験まで－」と題する

特別展示をこの夏の期間に開催します。この展示では、中谷宇吉郎に始まる雪や氷の生成の実験が、現在では宇宙での実験に発展していることを資料や特別講演などでご紹介いたします。多くの会員の皆様のご来場をお待ちしています。

中谷宇吉郎雪の科学館 館長 古川 義純

北大低温研と雪の科学館が連携に合意し、7月23日(金)、館で締結式が行われます。研究機関と科学館の連携により、双方のメリットとなることが期待されます。

連携協定を記念し、特別展示と記念講演会が開催されます。詳しくは同封のチラシをご覧ください。以下、留意点のみ記します。

○7月22日(木)～9月21日(火)、特別展示「雪と氷の結晶－中谷の実験から宇宙実験まで－」。

○23日(金) 午後、館の映像ホールで締結式が行われます(一般参加の予定はありません)。

○24日(土) 13時30分～映像ホールで記念講演会「氷と宇宙」。低温研の渡部直樹教授と古川館長が講演します(定員15名。18日9時～電話受付)。オンライン(ZOOM)でも視聴でき、QRコードからアクセスして下さい(パスワード不要)。

○8月21日(土) 10時、JAXAの田丸晴香氏による記念講演会「国際宇宙ステーションと宇宙のお話～宇宙ってどんなところ?～」は小中学生親子が対象。さくらホールで(定員30名。8月9日9時～電話受付)。



北大低温研



## (旧)低温研の見取り図を添え、建設の進捗状況等を出征中の孫野長治に伝えた宇吉郎の手紙（1941）

北大低温研と雪の科学館の連携協定締結という喜ばしい状況を迎え、この機に宇吉郎が創設に大きく関与した低温研についての資料を1つ紹介します。それは満州へ出征中の門下生・孫野長治に宛てた手紙(雪の科学館蔵)。宇吉郎が低温研の見取り図を描き、中谷教室の面々の様子を伝えています(文中の藤田ミチは自由学園の霜柱研究グループ)。

1941年は、5月に宇吉郎が帝国学士院賞を受賞し、11月25日に低温科学研究所が発足しました。(その後1968年に現在の地(1頁写真)に移転) (神田)

長い御手紙を有難う 日記も大変面白かった 一つその調子で 元気にやって下さい。満州の春の花は綺麗なやうですね 札幌も只今初夏の一番良い时候になりました お祭も好晴に恵まれピーヒョロンドン・ドンの行列も盛に復活しました 毎日快晴の天気つづきで一同大元気です。

低温研究所も大学の分(七〇〇坪)は既に屋根をふき、壁紙を貼り出しました。低温室の煉瓦もつみ上りました。只今海軍の分(五〇〇坪)の地均しをやっていますがこの方はコンクリート四階建になる

ので大変です 理学部前の広場は完全に一杯につき 弓の道場まで届きます。あの奥にあった煙突をその儘使ふことになりました

ところで教室は益々繁昌賑やかなことです  
吉田君 今度低温研究所専任になって応用物理をやる

花島君 理学部の助教授になり、低研で仕事をする

井上君 低研の助教授になり 海洋をやる

荒川君 凍上 土の収縮のつづき そのまま

小川君 満鉄の留学生、菅谷君と一緒に凍上

菅谷君 只今パンキングの影響をやってる。霜柱氷層がとても自由に出来るやうになった

藤田ミチ君 湿土に温度変化を与えると 温い方から冷たい方へ水が動くことを発見 その仕事

藤田春君 元気、写真、雑務

加賀美君 元気、只今雷観測準備に忙し

西山君 新しい雇、只今修行中

外に三年生六人 大分仕事が進捗

どうも驚いたことです。二三日前は古川ロッパ君が来訪 低温室を見せました 見物が多くて少々ロッパ君テレていた

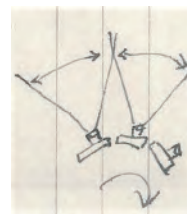
七月一日より三十日まで、小生、吉田、花島、加藤(学生)、菅谷、加賀美の六人で前橋出張 今年はライカを十台並べて廻して 電光全部を捕へる筈。

以上

六月十九日

宇吉郎

孫野君



(旧)低温研が完成した頃の写真  
左から東晃、宇吉郎、孫野長治(1941) ©中谷宇吉郎記念財団

## 雪の科学館ガイドブックの制作を振り返って

森田 菜絵（東京都会員）

中谷宇吉郎生誕120年記念の一環で、今年3月末に「雪の科学館 ガイドブック」が刊行されました。私は中谷宇吉郎記念財団の事務局スタッフとして、企画・監修を担当させていただきました。

友の会の皆さんにとっては周知のことですが、雪の科学館は1994年の開館以来、雪と氷を専門にしている世界的にもユニークな存在で、磯崎新さんの建築に中谷芙二子さんの霧の彫刻、数億年前のグリーンランドの石、千差万別の雪結晶たちの形態と成長、ダイヤモンドダストにチンダル像…と、いろんなスケールでフォトジェニックな場所でもあると思います。

以前、私は東京・お台場にある日本科学未来館で働いていたのですが、先端科学を総合的に扱う規模の大きい科学館と、雪の科学館とでは、ある意味真逆な形態とも言えます。一方、「科学コミュニケーション」や「科学を文化に」といった点では、雪の科学館は国内でもかなり先を行っているミュージアムだとずっと感じていました。この魅力をもっと多くの方に知ってほしいという思いと、館の皆さんの強い希望により、生誕120年を機にガイドブック制作の企画を立ち上げることになりました。

加賀と東京、札幌、コロナ禍で移動が難しい中、制作は一筋縄には行かず、内容の練り直しや情報収集、確認を重ねる日々でした。四半世紀以上の館の歴史や蓄積を惜しみなく、さらに毎日のように新しい素材やアイデアを提供して下さった神田健三顧問、すみずみまで端正でチャーミングな本にまとめあげて下さった編集の楠見春美さんとデザイナーの泉京子さん、展示や中庭の風景を加賀の子どもたちとともに魅力的に撮って下さった木村悟之さん、潮津保さん、山分正英さん。そして、雪氷から地球環境、さらに宇宙まであざやかに科学の軸を示して下さいました古川義純館長と、心底温かい雪の科学館のスタッフや関係者の皆さんのおかげで、何とかかたちにすることができたと思っています。個人的には、「科学映画の開拓」のページを入れられたことが、感慨深いです。この項は、岩波映画の研究もされている山永尚美さんにお世話になりました。

芙二子さんからは「このガイドブックが、さらに



雪の科学館のショップで販売中（通販も）  
（皆さんのまわりで取り扱って下さるショップ等ご存知でしたら、ご紹介いただけたら幸いです。）

また25年の年月を保証してくれる」とのコメントがありました。小さいですがタイムレスな冊子として、これから多くの方に届くことを願っています。

### 夏休み特別企画「氷のふしぎを調べよう」

チラシ裏面をご覧ください。暑い夏に氷に触れていろいろな実験をします。

8月7日(土) 10時~11時半、映像ホールで。入館無料。

講師：神田健三顧問

持ち物：写真が撮れるもの（スマホなど）

定員：12名。小学生と保護者（一般の型の参加も可）

申込：7月25日(日) 9時から（先着順）電話で。

（ボランティアスタッフを若干名募集中です。）

### 中谷教授の復元教授室を見ることが可能に

北大総合博物館に中谷教授が使った教授室が復元されていますが、VR（仮想現実）の技術で、パソコン等で教授室の様子を見ることができるようになりました。VRを作成したのは北大の科学コミュニケーション講座/CoSTEP（コーステップ）の川本准教授で、右記のQRコードで公開されています。（開いて、鍵マークをクリック!）



## 友の会会長に柏田たけあき剛明さん（7.3総会）

友の会総会が7月3日（土）13時からテリーナホールで開催され、県内の10名が出席しました。

出席者の自己紹介に続いて、令和2年度の事業と決算・監査の報告（添付）を行い、役員を改選しました。総会の後、茅野でのワークショップについてスライドで紹介しました。

新会長に柏田剛明さん、各役員は以下の通りです。

会 長 ★柏田剛明 （★:新）（敬称略）  
副会長 中谷宇一郎  
事務局長 東川憲二  
幹 事 北口由美子、長谷川弘子、★小川弘司  
（以下県外）山崎敏晴、福田暉夫、  
外嶋友哉、山田功、四宮義正  
会計監査 下口としゑ  
顧 問 ★神田健三



前列：（左から）長谷川・柏田・東川  
後列：中谷・北口・小川・神田 の役員各氏

## 就任のご挨拶 並びに 令和3年度の事業計画について

中谷宇吉郎雪の科学館友の会会長 柏田 剛明

この度、友の会会長を務めさせていただくことになりました柏田です。よろしくお願いたします。

自己紹介は「六花」52号でさせていただいたばかりですので省略いたしますが、市役所勤めも今年度いっぱいになりました。現在も山中図書館で司書しております。

新型コロナウイルスの蔓延は未だに終息が見えません。昨年度中止となった総会は、本年度は中止するわけにはいかないということで、ご遠方の方には

誠に申し訳ありませんでしたが、石川県内だけの10名の出席を得て開催させていただきました。

そうした中で、永年、当会の振興に尽力された神田前会長は、昨年度より雪の科学館の顧問に就任されました。館の運営側の人間が館の友の会の代表を兼ねるのはよくないということで辞意を表明され、私にお声がかかった次第です。

神田前会長は10代の頃から中谷宇吉郎に私淑し、館建設準備の段階から市の職員として勤務、長らく館長を務められた方です。その代わりが務まる人はどこにもいないと思いますので、友の会でも顧問として指導をお願いすることとなりました。

さて、友の会の令和3年度の事業計画ですが、先の見えない情勢下、会だけで大きな事業を計画することは困難です。

会報「六花」は例年通り年2回程度発行、館に協力して昨年度初めて行った館周辺の草むしり作業①は今年も実施いたします。また、生家跡整備の市への要望につきましても引き続き要望していきます。

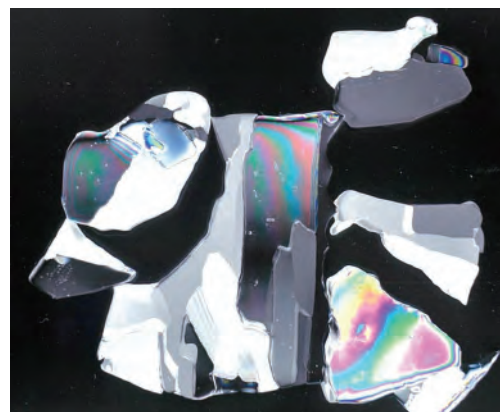
そして、昨年度文科省委託で実施しました「雪と氷のワークショップ」ですが、令和4年度に「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施できないかと考えており②、会員の皆様のご意見を伺いつつ、今秋の募集に応募したいと考えています。

会員の皆様におかれましては、今後とも事業への参画、会報への寄稿、会費の納入等、友の会の活動への積極的なご参加・ご支援をお願いいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・

①草むしり：7月21日（水）8時、雪の科学館事務所前にお集まり下さい。

②雪と氷のワークショップで「子どもゆめ基金」に10月に申請するため、9月中旬に準備する予定。「〇〇で開いてほしい」「スタッフとして参加したい」など、全国の会員からの提案をお待ちします。ご連絡は各役員または雪の科学館へ。



ジグソーパズル？ 氷？